

そだちサポートプロジェクト

令和7年度 第3回 そだサポ研修&交流会

令和 7年 12月19日（金） 18：30 ～ 20：00

○ 参加事業所（事業所数）

奄美市（1）

のぞみ園

瀬戸内町（2）

ここ園

龍郷町（2）

愛かな
聖隷かがやき

喜界町（1）

てくてく教室

与論町（1）

ほのぼの

鹿児島県（1）

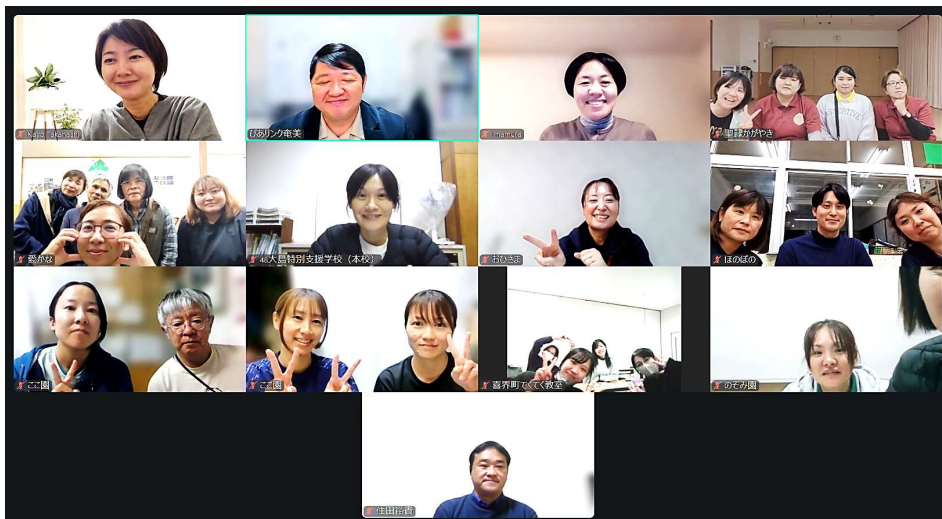
おひさま

オブザーバー（2）

住田氏（国分西小）、増永氏（大島特別支援学校）

講師/事務局（3）

今村氏、高橋氏（鹿児島大）、福崎、（びあリンク奄美）



合計 29 名

1.各事業所自己紹介

2.ミニ研修（別紙資料）

「支援ニーズが高い子ども」の支援について②

～情緒面の不安定さを持つ子どもの理解～

鹿児島大学大学院
臨床心理研究科

准教授
高橋 佳代 氏
准教授
今村 智佳子 氏

今年度の研修内容案

<支援ニーズが高い子どもの支援>

6月：学校に継続的に登校ができない状態にある子どもの支援

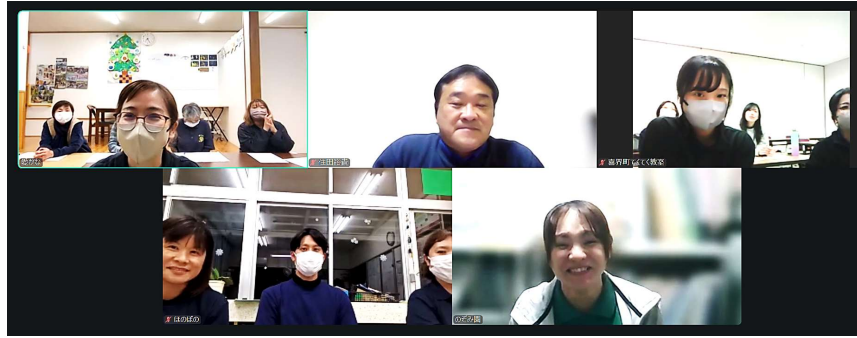
9月：暴力や暴言など支援に工夫が必要な子どもの支援

12月：情緒面の不安定さを持つ子どもの理解

3.交流会

【1G】

- 愛かな
- のぞみ園
- ほのぼの
- てくてく教室
- 住田氏（国分西小）



【発表：住田氏】

他害行為を未然に防ぐ対応：子供が他の子に手を出してしまうような場面では、大人が察知した段階ですぐにそばに寄り、行動が起こる前に止めるようにしていることや、日頃から子供を観察し「どんな時に」「何に対して」その行動が起きるのかというパターンを把握して注意を払うことが重要であるという意見が出された

気候・気温の変化による影響：気温が下がった時に調子を崩す子供が多いという事例が挙げられた。これに対し、気候の変化に対して非常に敏感な子供がいることを認識し、配慮する必要性が示された。

環境要因による行動の解釈：子供たちの問題行動や不調は、本人だけの問題ではなく、気候や行事、生活習慣といった「周囲の環境」に影響された結果として表れているという共通認識が持たれた。

【2G】

- 聖隷かがやき
- ここ園
- おひさま
- 増永氏（大島特支校）



【発表：おひさま】

外出困難な児童への通所支援：不登校などで自宅から出られない児童に対し、職員が訪問してスライム作りなどの好きな遊びを共有し、事業所に来るメリットを伝えることで外に出るきっかけを作ったという経験について共有した。

支援体制の構築と安心感の提供：支援者の疲弊を防ぐためのキーパーソンとサブの体制を整えたり、学校ではiPadを活用して家庭とつないで学校の様子を伝えるなど、本人が見通しを持って安心できる情報を届けることが重要だという意見が出された。

基本的生活習慣の把握と信頼構築：睡眠や食事、昼夜逆転の有無といった生活実態を正確に把握するとともに、大人が信頼できる存在であることを本人が実感できるような関わりを優先していくとよいのではという意見が出された。

思春期の特性に応じた活動構成：エネルギーがあり余っている思春期の児童に対しては、メインの活動に入る前に身体を動かす時間を取り入れ、丁寧に見通しを提示することで落ち着けるよう取り組んでいるという事例が紹介された。

情動行動への多角的な見極め：切り替えが困難な行動に対し、単に禁止するのではなく、その頻度や強度の変化を観察し、どこまで許容すべきかという関わり方のラインを見極める必要があるという意見が出された。